

第3回 羽村市まち・ひと・しごと創生計画懇談会 グループディスカッション

2015/08/21 201・202会議室

「はむらスタイル」について

グループ	懇談会での発表(要約)
①池田委員、 田嶋委員、 寺島委員、 伊藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ●キーワードを入れ、わかりやすいアピールが必要。 ・職・住(職業・住居)の接近 → 「働く場所が近くにあり、住みやすく、(会社と家が近いので)時間を有効に活用できるところに住める」 ・「適度な自然」と「子どもが暮らす」 → 「子どもが安心して遊べ、休日にどこにも行かなくても羽村市で暮らせる」 ・「教育のアピール」 → 小中一貫、市内の幼稚園、小学校、中学校、高校をアピール ・「羽村市の農業」 → 農業の素晴らしさと「食」のアピール
②井手委員、 宇津木委員、 渋谷委員、 小林委員	<ul style="list-style-type: none"> ●インパクトに残る言葉を使う。 ・例えば「おせっかいな街」 ※二度見する言葉を入れる。 ・女性が活躍できるキーワードが必要。
③岡委員、 高橋委員、 折原委員、 羽村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会の加入率を上げ、女性の安心を高める。 ・「羽村市はほっとする」 → 「風が動いている」という表現に。 ・人口増に貢献した家庭には補助を出す。 ・羽村市動物公園を拡張し、園内に家を建てる。 ・羽村市の子どもの体力は都内で一番ということをアピール → 「ハムライザー」 ・子どもにターゲットを当てる → 「羽村市民みんなの背中には羽が生えている」 ※羽村市をアピールするには、羽やエンジェルという言葉を使ったほうがいい。
④大和田副会長 山本(三)委員、 勝山委員、 清水委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「はむらスタイル」の具体化のために。 → 「子どもたちが住みやすい」ことを目標にすると、母親も子育てしやすくなる。 ・市外から人を取り入れるために。 → 「住めばわかる」というキャッチフレーズ。観光部門に力を入れ、羽村市に足を運んでもらう。羽村市はいいなと肌で感じてもらい、住んでもらえるような施策が必要。「来て」という呼び込みが必要。